

土壌を作り、維持し、土と根の健康を保つために 一番大事な主役は、
有益な土壌微生物群の旺盛な活動です。
持続的に豊かな稔りをもたらす『地力作り』の核心は、微生物！

〈乳酸菌〉が 簡単・確実な 地力作り

《ラクト・バチルス》を投入し続けると 乳酸菌の活躍で、土が変わって行くのが解ります。

- (A) 土から腐敗臭が消え、健康な醗酵状態に浄化されます。
- (B) 根が長期間働き、特に深層の根が健全に働きます。
- (C) 有機物(ワラ, 籾殻, 前作残渣等)や、ナマの厩肥(糞尿)も 田畑の土ごと醗酵し、健全な土壌が出来ます。
面倒な堆肥作りをしなくても、ナマの原料とラクト・バチルスを土に直接スキ込むだけ！
- (D) 硫安などの肥料も一旦、微生物が摂り込みアミノ酸等に有機化するのので、化学肥料の害が無い。
肥料分は微生物に蓄えられ、地力的に効きます。チッソ過多になりにくく、健康な生育となります。
- (E) 土壌が団粒構造化して 通気・通水・排水も良くなり、栄養分が循環します。
- (F) ミミズ・小動物も増えます。

地力づくりの基本…通性・微生物群

ラクト・バチルス

[粉状] (小) 1.25kg 袋入り ・ (大) 2.5kg 袋入り

株式会社 カルテック

〒669-2341 兵庫県 篠山市 郡家87-10
TEL.(079)554-2212 FAX.(079)554-2213
<http://www.caltec.org/>

ラクト・バチルス の 内容

原材料	微生物培養基質としての植物質（米麦）、微生物定着基質としての植物質（粉状木質）					
製 造	乳酸菌(Lactobacillus 及び Streptococcus)、酵母、及び数種の菌を、それぞれの環境で培養し、増殖後に休眠させてから、植物質(粉状木質)に混和し、定着させたものです。 これらの微生物は休眠しており、使用後の適湿(及び適温)条件で再増殖します。					
成 分 分析例	炭水化物等(有機物) 約 90 % [炭素(C)として 約 48%]		水分 約 8 %			
	(註1) 上記の炭水化物の大部分は植物質(木質)のものです。 (註2) 下表の灰分合計7316ppm(=0.7%)は 原材料の植物質と微生物原体が当然含むものです。					
	窒素および灰分 合計	7316ppm	N (窒素)	687ppm	P (磷)	785ppm
	K (カリウム)	1640ppm	Ca (カルシウム)	2436ppm	Mg(マグネシウム)	821ppm
	Fe (鉄)	68ppm	Mn (マンガン)	46ppm	Zn (亜鉛)	21ppm
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料は米麦有機物、木質のみであり、他の物質の添加は一切していません。 ・化学成分や特殊な物質、ホルモン等を含みません。有害重金属を含んでいません。 ・NPK等の肥料成分は ごくわずしか含まないので、肥料ではありません。 ・原材料は 種子・栽培とも国内産で、遺伝子組換えをしていないものです。 ・増殖微生物は 飲食品醸造にも使われて来た乳酸菌等で、国内在来の菌だけを使用しています。 					
<p>『ラクト・バチルス』の内容は、原材料から見ると、上記の通り、単なる『有機物』(植物質)です。 [肥料では無いという広い意味で「土壌改良材」とされることもありますが、「土壌改良資材品質表示基準」には該当しません] 一般に、投入した資材・肥料等の内容が 農産物の内容・安全性に影響するという意味では、この製品は有機物(植物質)、すなわち堆肥類に分類され、しかも醗酵過程が最善に管理されており、最も安全な資材です。 ただし、『ラクト・バチルス』の目的は、農業の実技で最も重要な、農地での有機物の分解過程、土壌微生物群の活動状態を健全に管理すること、つまり『土作り』のために、微生物群を添加・増強する事です。 農業用微生物材として 日本では最も古くから、半世紀以上に渡って活用されています。</p>						

ラクト・バチルスの主な使い方

作物	目的 [標準] 地力作り	時期・場面 〈作用〉 ワラの鋤込み時 〈ワラ・稲株の地力化〉 ★なるべく秋起し時に鋤込みます。 春なら田植1ヶ月前迄が効果大です。 ①田植え～1ヶ月間 〈腐敗・悪臭ガスを防止〉 ②出穂45日前、過剰分ゲツ抑制期 〈過剰チツソを抑え、葉色をさします〉 ③追肥時に混合施用 〈チツソをアミノ酸化し、ジワリと効かせます〉 元肥時／追肥時(計2回) 〈土壌の回復〉	使 用 方 田んぼ10アールに 400グラム 。 硫安10kg(またはヌカ等)に混ぜ増量・散布し、耕耘します。(チツソ量は適宜調節) 田んぼ 10アール当り 200グラム～400グラムを、土・砂等で増量して捏ね、ボール数個～十個を作って、湛水した田んぼのあちこちに投げ入れます。 硫安、尿素など肥料の施用時に、10アール当り50グラム～400グラムを混合。 10アール当り 1.25kg 。 硫安などの肥料に混ぜて散布。
水稲	稲の生育途中の土の調節		
水田作物	レンコン、クワイ、イグサ等		
畑作・果樹	地力作り	有機物(堆肥肥・元肥)の投入時 〈生の有機物や前作残渣を推奨〉 ★なるべく早いうちに投入して耕し、播種・植付け迄に20日以上おく事。 ★果樹では通常、秋肥(元肥)時に投入。	畑10アールに 600グラム 。 硫安(通常60kgで元肥兼用)または肥料、ヌカ、有機物、堆肥に混ぜて散布し、耕します。 ★有機物(堆肥)と、硫安などチツソ肥料とで、CN比のバランスを取るようして下さい。
	途中追加	追肥時に混合、または単独で投入 〈土の過湿・腐敗・肥料過剰時の対策〉	畑10アールに400～600グラム。 硫安などの肥料か、ヌカ等に混ぜて散布。
有機物の醗酵	堆肥作り	積み込み時 (通性醗酵なので切返し不要)	材料1トンに300グラム混合(ヌカ15kgで)
	ボカシ肥作り	積み込み時 (硫安などの肥料も使えます)	材料100kgに300グラム混合(ヌカで)
	野菜の育苗培土	混和時 (有機材料とカルシウムも混合します)	培土材料1立米に300グラム混合(ヌカで)